

真っ赤に色づいたトマトを収穫する親子連れ



障害ある子と親ら トマト収穫楽しむ

余市のNPOが農園に招待

北海道新聞 2017.9.17

【余市】農業と福祉の連携で障害者の自立支援を目指す町内のNPO法人「どりーむ・わーくす」（水尻宏明理事長）は16日、札幌

市の知的障害者を招き町黒川町の農園でトマト収穫体験会を行った。

同法人は大手食品メーカー「カゴメ」（名古屋）の高級ジュース用トマト品種「爽果^{さわみか}」を、約40㍏契約栽培している。体験会はカゴメの協力で企画され、札幌市の親子4組9人と北星学園大で心理学を学ぶ学生ボランティアなど計約30人が参加した。

真っ赤に色づいたトマト畑の中で、参加の親子らは収穫や宝探しゲームを楽しんだ。札幌市手稲区から長女（15）と参加した主婦（46）は「障害があると親子で出かけられる場所が限られ、

ありがたい催しです」と喜ぶ。水尻理事長は「障害者が楽しく過ごす時間を提供し、交流を通じ障害への理解を少しでも深めてもらえたら」と話す。

トマトの収穫は10月初めまで行い、約20㍏を収穫予定。ジュースは11月末ごろからネット通販で限定販売される。

（竹内博）